

3章 技能ごとの調査結果の分析

(1) 読むこと ～ Reading ～ . . . 50

(2) 聞くこと ～ Listening ～ . . . 61

(3) 書くこと ～ Writing ～ . . . 72

(4) 話すこと ～ Speaking ～ . . . 83

※本章で扱うデータは、特に注記がない限り、公立学校の調査対象校のものとする。

(1) 読むこと ～ Reading ～

1. 学習指導要領における領域・内容

① 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ることができる。

2. 本調査において当技能で問うている力

Part A 「語彙・語法問題」…短文中の空所に適切な語を補う問題で、文脈を理解するとともに、文法的に最も適切な表現を判断する力を測定している。

Part B 「情報検索問題」…与えられた英文の題材について、短時間で必要な情報を引き出す力（情報検索力）を測定する問題で、上記学習指導要領における①の力を見ている。

Part B 「概要把握問題」…与えられた英文の題材について、短時間で全体の概要を理解する力を測定する問題で、上記学習指導要領における①の力を見ている。

Part C 「要点理解問題」…まとまった量の英文について、英文の趣旨に関する内容や詳細部分の要点を理解し、必要な情報を読み取る力を測定する問題で、上記学習指導要領における①の力を見ている。

3. 課題など（◇…相当数の生徒ができている点 ◆…課題のある点）

以下の内容は、約 70%の生徒が該当する A1 下位レベルの特徴である。

読むこと

◇昨年同様、短文レベルの語彙・語法問題（Part A）や、情報検索問題（Part B）の中には、正解率が 70%を超えるものもある。

- ◆短文における話の流れや複数の情報相互の論理関係を理解する力に課題がある。
- ◆英文の流れを大まかに押さえながら情報を検索することに課題がある。
- ◆英文全体の意味を把握し、文脈や前後関係を押さえながら読むことに課題がある。
- ◆まとまった量の英文を読み、概要や要点を読み取ることに課題がある。

4. 指導改善のポイント

読むこと

生徒用アンケート結果から、「読むこと」の学習において「英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていたと思いますか」という問いに対して、「そう思う」・「どちらかといえばそう思う」のスコアが A1 下位と上位では、14.7%差がある。その前提と今回のテスト結果を踏まえ、以下を提言する。

○学習者のレベルに合った文章をたくさん読む活動

教科書での指導以外にも、学習者のレベルに合った初見の文章を、1文ごとに区切って読むのではなく、段落ごとや、文全体などできるだけまとまった量を、一気にたくさん読む活動が求められる。英文素材については、教科書の題材とその関連に留意して適切なものを選び、イラストや写真、図表なども参考としながら理解する活動を取り入れたい。また、レベルに応じて投げかける質問の幅を調整したり、その質問への答え方は、必ずしも英語での応答に限定しないようにするなどして、学習者のレベルを調整することができる。未知語は、読みの妨げにならないよう、できるだけ少量にとどめ、また一部の未知語については、前後の文脈からどのような意味かを類推する活動を行い、一気に読み通す力を養うことも重要である。

○逐語的な読みから脱却し、英文を意味のかたまりごとにとらえる活動

普段の授業において、単語や短文の正確な理解を目指す指導を積み重ねるだけでは、文章全体を理解する力が十分には身に付かない。教科書の本文であれば、最初から詳細な読みに入るのではなく、英文を意味のかたまりごとに大枠でとらえて読み取らせる指導が必要である。語彙については、その単語がどのような場面で、またどのようなニュアンスで使用されるのかを意識した例文を用意して意味がわかるようになる必要がある。その後、実際にコミュニケーションの中で使うなどの活動を取り入れることで、「理解 (input)」を「取り込み (intake)」につなげることができ、英語を読むだけでなく、聞く、話す、書く際にも役立つであろう。

○目的に合わせて英文を読む活動

英文にあたる際は読む目的を示し、目的に沿った活動や発問を工夫したい。例えば、“What is this story about?” などの問いを投げかけて、文章全体にどのような内容が書かれているのかを把握するような活動をするなど、全部を完璧に読もうとせずに「必要な

情報を検索する」、「内容を大づかみする」、「筆者が最も言いたいことをとらえる」ことを意識しながら読み進める活動が必要である。

○読んで終わりではなく、理解したことを基に話したり書いたりする活動

英文を読む際は、読んで理解することのみを最終ゴールとせず、読んで得た情報を基に、読み取れたことを生徒同士がペアやグループになって伝え合ったり、書き手が最も伝えたいことは何かを尋ね合ったりするなど、統合的な活動を工夫することが大切である

上記の指導改善のポイントにあわせ、A1 下位レベルの生徒に対しては、逐語的な読みを行い英文全体の文脈を捉えることに課題があることが考えられるため、簡単な語句や文で書かれた短い文章を繰り返し読んで、それらの概要や要点を捉えることができる活動を行う。このような活動を通じて、まず読むことへの抵抗感をなくすとともに、読んで理解できたという自信を持たせることが重要である。

5. 問題詳細分析

Part A Question 6

6 Tim sat on his grandmother's _____. It broke, so she had to buy another one.

- [A] hat
- [B] jacket
- [C] newspaper
- [D] watch

※ Copyright © 2017 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

■出題の趣旨・形式

短文中の空所に適切な語を補う問題で、文脈を理解するとともに、文法的に最も適切な表現を判断する。

■解答類型と反応率

Q. 6

選択肢	A1 下位レベル反応率	A1 上位レベル反応率
A	24.3%	17.1%
B	25.2%	10.4%
C	21.6%	5.1%
D (正解)	21.9%	65.6%
無解答	7.0%	1.8%

■分析結果と課題

英文の内容を理解して、選択肢の中から空所にあてはまる適切な語句を選ぶ設問である。このような設問では、一文全体に目を通して、話の内容や流れを理解した上で、その文脈にあてはまる語句を選ぶ必要がある。この問いでは、空所の後の情報に着目し、選択肢 [D] watch を選ぶ必要があった。A1 下位レベルの正解率は 21.9%であり、一方で、A1 上位レベルの正解率は 65.6%と 43.7 ポイントの差がある。A1 下位レベルの誤答は、選択肢 [B] が最も多く 25.2%であった。空所の後の情報“broke”が、空所に入れられる情報の糸口となるが、「壊れるもの」が何であるかを類推できず、その結果、正答が選択できず、分散した解答結果となった。

以上より、A1 下位レベルの課題は、短文における話の流れや複数の情報相互の論理関係を理解することにあると言える。

■学習指導に当たって

昨年度同様、重要であるのは英文を逐語的に理解するのではなく、文章全体として何を言っているのかを理解できるようにする指導が必要である。英文を読む際には、個々の単語の意味にとらわれすぎずに、英文の意図を問う活動を取り入れたい。また、語彙指導においては、実際に使用場面を意識して身に付けられるような活動も必要であろう。

英文読解においては、逐語的に読んだり、振り返りをしたりする習慣から脱却するために、英文を意味のまとまり（チャンク）ごとにとらえたり、振り返りをせず前から理解しながら読むスキルを身に付けさせたい。意味のまとまりを意識させ、それを教師のモデルについて音読するなどの活動も考えられる。単なる英文の読み上げで終わることなく、適切な場所で区切りながら読めているかを活動中に確認することも忘れないでおきたい。

今回の出題で言えば、空所の後の英文を理解した上で、正しい単語を選べるかどうかのポイントであった。授業内での読むことの指導においては、英文の 1 文単位の理解を確認するだけでなく、文と文とのつながりに焦点を当てた理解の確認をすることが必要である。その際、代名詞が何を指しているのかを確認したり、並んでいる 2 文の内容の関係性（例えば、「主張と理由」、「出来事と感想」など）を確認したりするなど、文単位の理解と文章単位の理解を同時に行うことが大切である。

その他、指導する際には必ず肯定文→否定文→疑問文と進めるのではなく、“Can you ~?” “Yes, I can.” “No, I can't.” と答えたことに対して、“And?” など質問を続け、何かを続けて言うような促しをすることで、読解だけでなく、実際に話したり書いたりする場面でも正しく使用できるようになると思われる。

Part B Question 14



Rivermont High School Show

Date: Saturday June 27th
Time: 2:00 pm - 7:00 pm
Place: 2240 Lakeside Road, Rivermont

All students! It's time for the Rivermont High School Show again!

Schedule:

Event	Event time
Telling Stories	2:00 pm - 3:00 pm
Playing Piano	2:00 pm - 4:00 pm
Singing	3:00 pm - 6:00 pm
Dancing	3:00 pm - 7:00 pm

Tickets are free! Bring your friends and family, and have a great time!
There will be seats for everyone!

Free drinks and snacks after the show.
A photographer will take photos during the event for you to take home to remember the show. \$1 for each photo.

14 What can you buy at the event?

- [A] Drinks.
- [B] Photos.
- [C] Snacks.
- [D] Tickets.

※ Copyright © 2017 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

■出題の趣旨・形式

与えられた英文の題材から、短時間で必要な情報を引き出す。(情報検索力)

■解答類型と反応率

Q. 14

選択肢	A1 下位レベル反応率	A1 上位レベル反応率
A	16.9%	2.5%
B (正解)	49.2%	93.1%
C	15.1%	1.5%
D	17.7%	2.8%
無解答	1.2%	0.1%

■分析結果と課題

この設問では、詳細の読みをするのではなく、英文にざっと目を通し、概要をつかむ問題である。A1 下位レベルの正解選択肢 [B] の選択率は 49.2%であり、一方で、A1 上位レベルの正解率は 93.1%と 43.9 ポイントの差があった。A1 下位レベルの誤答は、選択肢 [D] が 17.7%と最も多かった。上から英文を読み進めて、買える物について書かれている 1 行

目に“Free drinks and snacks after the show.”とあり、選択肢 [A] に“Drinks.”があり、[C] に“Snacks.”があるため、“Free～.”の意味に着目することなく選択肢と同じ単語に引きずられて解答している状況である。

以上より、A1 下位レベルは、本設問のように、最後まで読み通して、英文の流れを大まかに押さえながら情報を検索することに課題があると言える。

■学習指導に当たって

インターネット等で生徒にとってふれる機会のある身近な素材（英字新聞記事・広告・時刻表など）を用意して、10 分くらいの時間で「楽しく読むこと」の活動として取り組むとよい。このような活動は、第1 学年の早い時期から取り入れたい。

取り組む際には、全体の中でここだけわかれば大丈夫であるという意識を持てるように、「どういう目的で書かれた英文であるか」「必要な情報は何か」「キーワードは何か」といったことを確認し、すべて日本語で理解することが目的ではないことに留意する必要がある。

また、「商品の広告」を素材とすることも考えられるが、一度使った素材でも、月曜から金曜はいくら、土曜と日曜はセールがあるなど、条件などを少し書き加えるなどして、繰り返し使うことも可能である。

Part C Question 22&24

When Ms. Cameron was young, she was a great tennis player. However, she had to give up tennis when she started working. When she got older, she spent time with her son's family. Then, her son's family moved to France for his job, so she wasn't happy.

One day, a 10-year-old boy named Martin was hitting a tennis ball outside Ms. Cameron's house. Then, the tennis ball broke her favorite flower pot! "Oh no!" Martin said.

Ms. Cameron shouted, "You broke my pot! You should play at the sports center!"

Martin said he was sorry, and then he sadly said, "The sports center has no tennis classes for young kids."

Ms. Cameron wanted to help Martin with his problem. The next day, she visited the sports center. "I want to give lessons to the children," she told the coaches.

They liked Ms. Cameron's idea and said, "OK!" So, she started a tennis class for Martin and his friends. Soon, she became a popular coach.

Years later, Martin became a tennis champion. One day, he gave her a present. It was a new flower pot! There was a message on it: "You helped me *grow* up to be a tennis player!"

22 What problem did Martin have?

- [A] He broke his favorite tennis ball.
- [B] He had to play sports with younger kids.
- [C] There was no sports center in his town.
- [D] There were no tennis classes for him.

24 Years later, Ms. Cameron _____.

- [A] became a tennis champion
- [B] got a present from Martin
- [C] grew flowers with Martin
- [D] played tennis with a popular player

■出題の趣旨・形式

まとまった量の英文について、英文の趣旨に関する内容や詳細部分の要点を理解し、必要な情報を読み取る。

■解答類型と反応率

Q. 22

選択肢	A1 下位レベル反応率	A1 上位レベル反応率
A	26.5%	8.3%
B	35.4%	18.4%
C	20.6%	11.3%
D (正解)	15.9%	61.8%
無解答	1.7%	0.3%

Q. 24

選択肢	A1 下位レベル反応率	A1 上位レベル反応率
A	38.6%	25.4%
B (正解)	19.9%	63.5%
C	18.2%	6.5%
D	21.4%	4.5%
無解答	1.8%	0.2%

■分析結果と課題

やや長めのまとまりのある文章に関して詳細を問う出題である。Q.22 は、A1 下位レベルの正解選択肢 [D] の選択率は 15.9%であり、A1 上位レベルの正解率 61.8%と 45.9 ポイントの差があった。A1 下位レベルの誤答は、選択肢 [A] が 26.5%、[B] 35.4%、[C] 20.6%とそれぞれに 20%以上集まっている。この設問に正解するためには第 4 段落最終文の“The sports center has no tennis classes for young kids.”の部分が読み取れなければならない。誤答選択肢 [A] He broke his favorite tennis ball.、[B] He had to play sports with younger kids. [C] There was no sports center in his town. では、設問である“What problem did Martin have?”、つまり Martin が抱えている問題である「テニスができないこと」の答えとして適当ではない。英文の主題（まとめるとどういう内容であるか）を類推することができていないことがわかる。

Q.24 は、A1 下位レベルの正解選択肢 [B] の選択率は 19.9%であり、A1 上位レベルの正解率 63.5%と 43.6 ポイントの差があった。A1 下位レベルの誤答は、選択肢 [A] 38.6%が最も多かった。質問文の“Years later, Ms.Cameron~.”の内容を理解した上で、最終段落 2 文目の“One day, he gave her a present.”の部分を正確に把握する必要があった。選択肢は、彼が主語ではなく Ms.Cameron が主語となるため、「与えた」→「受け取った」と置換する必要があった。

以上より、A1 下位レベルは、英文にあたる際に、読み進めながら得られる情報を頭の中での的確に処理しながら読むことができていないと言える。一つ一つの単語や文を断片的に読んでおり、まとまった量の英文を読み、概要や要点を読み取ることに課題がある。

■学習指導に当たって

「読むこと」の Part 別の正解率は、以下でのとおりであった。

	A1 下位レベル	A1 上位レベル
Part A	40.2%	70.9%
Part B	42.5%	69.9%
Part C	25.9%	49.9%

昨年度同様、この Part の正解率が最も低い。英文の分量も Part A、Part B に比べて多いこともあり、初見のある程度分量のある英文について、いきなりまとまった長さの理解から取り組むのではなく、段落ごとに「今登場した人物は誰か」「何か読み解けたキーワードがあるか」など一つ一つスモールステップで確認していくことが重要である。徐々に読み進め「内容を大づかみする」と同時に、「事実関係を正確に押さえながら詳細を理解する

読み」も行う必要があった。授業の中でも、全体の流れを押さえる活動、詳細の読みを求める活動といったように、これからどのような目的で読むのかを明確にしながら進めたい。

実際の読む指導の流れとして、次のような例が考えられる。

（導入）本文のテーマやストーリー全体についてブレインストーミングを行う。教師から提示されたキーワードから連想できることをペアになって英語で伝え合う。その際に、「まったくこの話を知らない人に説明してみよう」と指示するなど、できるだけ情報をそぎ落としてスリム化し、「この話の内容が伝わるか」に焦点を当てた活動にするとよい。

（聞き取り）モデルリーディングを聞いた後、聞き取れたことをペアで共有する。

（概要把握）段落ごとの概要について Q&A の形で簡単にやり取りし、大まかな内容をつかむ。Q&A については、概要を理解するにとどめる必要があるため、詳細な質問はせず、また数問程度でよい。ペアで意見交換したり、段落ごとのタイトルを考えたり、話の流れを図示したりする活動も有効である。

（詳細理解）段落ごとに詳細の理解を確認する。あらかじめワークシートなどに準備された話のポイントとなる質問に解答する。その際、本文の表現と、質問のパラフレーズされた表現に着目して、言い換え表現などへの意識も高めたい。

(2) 聞くこと ～ Listening ～

1. 学習指導要領における領域・内容

標準的な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを話された場合、以下のことができる。

- ① 短い英文を聞いて、情報を正確に聞き取ることができる。
- ② 質問や依頼などを聞いて適切に応じることができる。
- ③ まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ることができる。

2. 本調査において当技能で問うている力

Part A「イラスト説明問題」…視覚情報（イラスト）をもとに、ある状況や場面、事物を描写説明した短い英文を正しく聞き分ける力を測定する問題で、上記学習指導要領における①の力を見ている。

Part B「会話応答問題」…不意の問いかけに応答する適当な英文を素早く判断する力を測定する問題で、上記学習指導要領における①及び②の力を見ている。

Part C「課題解決問題」…日本語で事前に与えられる状況設定及び視覚情報（イラスト）と音声情報から、その場面で求められている課題（タスク）を解決する力を測定する問題で、上記学習指導要領における①、②及び③の力を見ている。

Part D「要点理解問題」…一定の長さの英文音声の中から、事前に与えられる英語の質問に答えるために必要な情報を選択し、適切な判断をする力を測定する問題で、上記学習指導要領における③の力を見ている。

3. 課題など（◇…相当数の生徒ができている点 ◆…課題のある点）

以下の内容は、相当数の生徒が該当する A1 下位レベルの特徴である。

聞くこと

◇短い英文で、問われている語句が直接示されている場合は、それを認識して正しく理解

することができる(「イラスト説明問題」(PartA)では90%以上の正答率のものもある)。

- ◆英文を聞く際に、印象に残りやすい語に引きずられてしまう傾向がある。英文全体の意味を理解し、その情報を一時的に保持した上で、解答にたどり着く力が求められる。
- ◆慣れ親しんでいる語句や表現が使われている選択肢を選びやすい。また、1文の中に不慣れな単語や表現が含まれている場合は、全体の意味の把握に困難が生じると言える。
- ◆語句単位で断片的な理解はできているが、文全体及び文脈で意味を把握することに課題がある。
- ◆まとまった英文から必要な情報を聞き取ることに課題がある。

4. 指導改善のポイント

聞くこと

生徒用アンケート結果から、「聞くこと」の学習において「英語を聞いて(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動をしていたと思いますか」という問いに対して、「そう思う」・「どちらかといえばそう思う」のスコアがA1下位と上位では、15.4%差がある。その前提と今回のテスト結果を踏まえ、以下を提言する

○多様な表現をインプット・アウトプットする活動

まとまりのある英文を聞いてその意味を理解する力を伸ばすためには、多様な語句・表現のインプットとアウトプットを繰り返しながら、使える力にしていくことが大切である。また、教員が話す英語は定型文にこだわらず、多様な表現を織り交ぜることを意識したい。例えば、授業開始直後のウォーミングアップとして日常生活で起きたことを教員がまとまった英文で話し、生徒がその内容に対して応答するなど、口語表現も含めてインプット及びアウトプットする機会を積極的に取り入れたい。その際、質問に対する応答は必ずしも表現が固定されていないことにも留意する必要がある。

インプット活動においては、ある程度の速さの英文を聞いて速さに慣れることも重要である。英語学習初期段階であっても、ナチュラルスピードの英語で様々な英語表現を聞いて概要把握をする経験は、英文の意味を理解する力を養うのに効果的である。

○まとまりのある英語を初めから終わりまで通して聞く活動

聞く活動を行う上で、英文を1文1文聞き取るというよりは、まずは初めから終わりまで通して聞き続けることも重要である。一連の英文を聞いた後に「聞こえたことは何か」「登場人物は誰か」など、教師からの質疑を通じて内容理解を促しながら、先頭に戻

ってもう一度、段落ごとに確認しながら繰り返し聞くと、まとまった長さへの抵抗感をぬぐうことにもつながると言える。

○聞くポイントを事前に示したり、聞く場面や状況を明確にしたりするなど、目的を持って聞く活動

リスニングでは、あらゆる情報を一時的に記憶しなければならず、素早く意味を理解しないと、直前に聞いた単語だけが記憶に残ってしまう状態を起こしやすい。本調査でも、直前に聞こえたものが含まれた誤答を選んでしまう生徒が多かった。この傾向は昨年度同様、多くの生徒の大きな課題であることは明らかである。

この状態を防ぐためには、日頃から目的を持って聞く活動が重要である。聞く活動を始める際に、何をポイントに聞き取るか明示したり、どういう場面・状況の英文であるかを明確にしておくことも必要である。例えば、文字情報なしで音声を聞かせて、適切な応答をする、内容に関する質問に答えさせたり、次の活動につながるように（聞き取ったテーマについて話し合うなど）することが重要である。

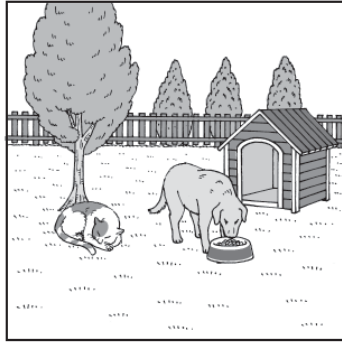
○聞いて終わりではなく、理解したことを基に話したり書いたりする活動

教科書の英文や関連する題材の英文を聞いて終わりではなく、聞き取った情報をペアで伝え合ったり、その中でどれが要点だったかを問う活動が重要である。また、教師から質問を投げかけ、「自分だったらどうするか？」など聞いたり、“And?”など質問をし、長く話し続けられるように促すことなども効果的である。その他、聞き取った内容を3分でまとめて書いてみるなど、技能統合的な活動も有効である。

上記の指導改善のポイントにあわせ、A1 下位レベルの生徒に対しては、日常的な話題に関する簡単な内容から必要な情報を聞き取るなどの活動を通じて、聞いて理解できたという自信を持たせることが重要である。

5. 問題詳細分析

Part A Question 7



<スクリプト> [F: Female]

F:

- [A] A cat is sleeping by a dog.
- [B] A dog is following a cat.
- [C] A cat and a dog are sharing food.

- [A]
- [B]
- [C]

※Copyright © 2017 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

■出題の趣旨・形式

視覚情報（イラスト）をもとに、ある状況や場面、事物を描写説明した短い英文を正しく聞き分ける。

■解答類型と反応率

Q.7

選択肢	A1 下位レベル反応率	A1 上位レベル反応率
A (正解)	58.5%	88.7%
B	20.9%	8.4%
C	19.4%	2.8%
無解答	1.2%	0.1%

■分析結果と課題

A1 上位レベルの正解率は 88.7%だったが、A1 下位レベルは正解率が 58.5%と、30.2 ポ

イント差がある問題である。A1 下位レベルの誤答としては選択肢 [B] が 20.9%、[C] が 19.4%と分散した。これは、選択肢 [B] の英文で流れる“A dog is following a cat.” や、選択肢 [C] の英文の“A cat and a dog are sharing food.”の中で、出てくる“follow” や“share”の意味がわからずに選択してしまったものと考えられる。また、正解選択肢 [A] “A cat is sleeping by a dog.” の“by” という表現が A1 下位レベルには定着していないと推察され、正解率の低さにつながった可能性がある。

A1 下位レベルの共通点として、英文を聞き取る際に印象的な語に引きずられてしまい、一文全体として意味をとらえることに課題があると言える。英文全体の意味を理解し、その情報を一時的に保持した上で、解答にたどり着く力が求められる。

■学習指導に当たって

昨年度同様、自然な速さの英語に慣れさせることが必要である。特に初級レベルの学習者に対してはゆっくりと区切って聞かせがちであるが、不自然な箇所では区切るような聞かせ方をすると、語句単位での理解にとどまり、文全体の意味を理解する力につながらない。日頃から教員が授業で話す際は、ある程度自然な速さ・リズムで聞かせるようにすることで、素早く英文の意味をとらえる力につながるだろう。

また、直前に聞いた情報に惑わされないためには、情報を一時的に記憶にとどめる必要がある。短い英文を聞き、聞こえた語句のまとまりを声に出してみるなど、話す活動とセットで行うことが効果的である。

積極的に話す活動を取り入れることで、「話すために聞く」姿勢も身に付き、リスニング力の底上げにつながる。教員質問紙の回答結果によると、No.1・(7) の「聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどする活動を行っていますか」という問いに対して、「よくしている」「どちらかといえば、している」と答えた割合は公立学校全体で昨年度は 37.1%、今年度は 40.0%と 2.9 ポイントの微増であった。「聞くこと」「読むこと」と「話すこと」を統合した活動を取り入れることで、各技能をバランスよく伸ばしていくことができる。

例えば、教科書などのイラストなどを見て、「何をしているところか説明してみよう」など投げかけ、英語で表現してみる活動や、初めて聞く素材をヒアリングし、聞いたことを整理してまとめて、ペアで話し合うなどの活動を行うことが効果的である。

Part B Question 11

- 11 [A]
[B]
[C]

<スクリプト> [F: Female, M: Male]

M: What color is your bag?

[A] My favorite color is orange.

[B] I really want a red bag.

[C] It's black with white flowers.

※Copyright © 2017 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

■出題の趣旨・形式

不意の問いかけに応答する適当な英文を素早く判断する。

■解答類型と反応率

Q.11

選択肢	A1 下位レベル反応率	A1 上位レベル反応率
A	24.1%	8.0%
B	48.3%	34.4%
C (正解)	26.3%	57.5%
無解答	1.3%	0.1%

■分析結果と課題

A1 上位レベルの正解率は 57.5%であるが、A1 下位レベルの正解率が 26.3%と 31.2 ポイント差があった問題である。この問題は絵などの情報がない分、頭の中で会話の場面を瞬時に理解し、応答すべき内容を考える必要があった。A1 下位レベルの誤答としては選択肢 [B] が 48.3%と最も多い。質問文“What color is your bag?”の“What color～?”と“bag”が印象に残り、選択肢 [B] “I really want a red bag.”の“red bag”に引きずられたことが原

因と考えられる。また、選択肢 [A] “My favorite color is orange.”は「色」が含まれていることから選んだ可能性がある。Part A Q.7 同様、慣れ親しんでいる語句や表現が使われている選択肢を選びやすい傾向がある。また、1文の中に不慣れな語句や表現が含まれている場合は、全体の意味の把握に困難が生じると言える。

■学習指導に当たって

「誰が／何が」「どうした」など、キーワードになる部分を聞き取って状況をとらえ、英文全体の意味を理解する力が問われる。英文の一語一句すべての意味を理解できなくても、キーワードとなる語を聞き取って会話の状況を把握することが重要である。その前提として、そういった語句の意味は音と関連付けしておかなければならない。声に出しながら書いてみるように指導するなど、「音」を意識させることが必要である。

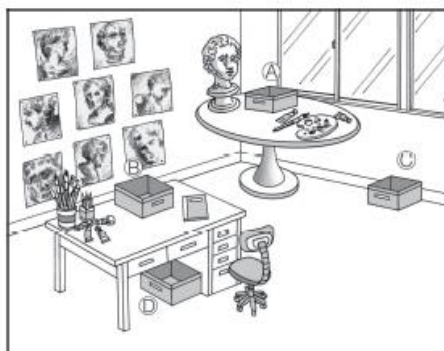
さらに、日常の言語活動においては、定型的なやり取りだけでなく様々な表現を提示したい。そうすることで、自然な場面で発話される様々な英語表現に対応する力がつく。例えば本問に出てきた“What color ～?”という問いかけについて、“Red.”と色だけを答えるケースだけではなく、“It’s red with ～.”のように多様な答え方を併せて示すようにしたい。日頃から教員が話す英語に様々な表現を入れ込んで、「こう聞かれた場合は、こう答える」といった型を身に付けさせるのではなく、答え方には色々あることを学ばせることが重要なため、インプット量を増やしていくことが重要である。

また、例えば “Do you have a pen?”と聞かれたときに、“Yes, I do.”と答えるだけではなく、なぜペンを持っているかを聞かれたのか、など、その会話が起ころ場面を想定し、ペンを貸してほしい気持ちから聞いているのかなど考え、“Here you are.”のように返すなど、「相手がなぜそれを聞いているのか」、「相手の意向が何であるか」を類推する活動も効果的である。

Part C Question 23

Questions 23 & 24

あなたの学校に海外から美術の先生が来ていて、あなたは今の先生の授業を受けています。授業の最後に先生から説明があるので、聞きなさい。



23 あなたは使わなかった紙をどこに置くか。

- [A]
- [B]
- [C]
- [D]

<スクリプト> [M: Male]

M: Pens and pencils go into the box on the desk. Put the paper you didn't use into the box under the desk. Paints and brushes go into the box on the table by the window.

※Copyright © 2017 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

■出題の趣旨・形式

日本語で事前に与えられる状況設定およびイラストと放送される英文から、その場で求められているタスク（課題）を解決する力を測定。

■解答類型と反応率

Q.23

選択肢	A1 下位レベル反応率	A1 上位レベル反応率
A	28.1%	8.1%
B	26.0%	12.2%
C	14.8%	5.2%
D (正解)	29.8%	74.4%
無回答	1.2%	0.1%

■分析結果と課題

A1 上位レベルの正解選択率は 74.4%であるが、A1 下位レベルの正解選択率は 29.8%と 44.6 ポイント差があった。この問題はそれぞれの場面において「解答者本人」が、その場に居合わせている状況と仮定し、聞いた内容を理解しそれに最も合う解答（＝とるべき動作）を求められているため、複合的に状況を理解し、解答する力が求められている。英文 1 文目の“Pens and pencils go into the box on the desk.”の“on the desk”が印象に残り、選択肢 [B] を選び、3 文目の“Paints and brushes go into the box on the table by the window.”の“by the window”が印象に残り選択肢 [A] を選んだ可能性がある。by や on などを正しく理解することには前述のとおり少しまだ課題があり、複数流れてくる英文から該当する部分を正しく聞き取るというのはさらに難易度が高かったと想定される。

■学習指導に当たって

例えば、お店で買い物をしている場面などのイラストを見せて、今何をしているところかを描写する活動をしてみるとよい。その際に、状況だけではなくて、そこに登場している人物に吹き出しなどをおいて、「その人は何を言おうとしているか」などを考えて表現させる活動なども効果的である。

また今回問題に出てきた by や on などは物がどこに置いてあるかを当てるゲーム等で学ぶ機会はあるが、自分で物の位置などを前置詞を用いながら表現してみることなどはあまり行う機会がないことが想定される。例えば I have a book.などを言うときに、「どこにあるの？」などやり取りの中で繰り返し使っていくことが重要である。

Part D Question 25

<スクリプト> [F: Female , M: Male]

M: I finally found my cap.

F: Where was it? In your bag?

M: No, under the sofa.

F: From tomorrow, start putting it away in your closet after getting home from school.

25 Where was the boy's cap?

[A] In his bag.

[B] Under the sofa.

[C] In his closet.

[D] At school.

※Copyright © 2017 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

■出題の趣旨・形式

一定の長さの英文音声の中から、事前に与えられる英語の質問に答えるために必要な情報を選択し、適切な判断をする。

■解答類型と反応率

Q.25

選択肢	A1 下位レベル反応率	A1 上位レベル反応率
A	8.3%	1.4%
B (正解)	47.6%	74.2%
C	24.5%	16.4%
D	18.1%	8.0%
無解答	1.5%	0.1%

■分析結果と課題

A1 下位レベルの正解選択率は 47.6%、一方で A1 上位レベルは 74.2%と 26.6 ポイント差があった。A1 下位レベルでは、誤答が選択肢 [C] に 24.5%と集まっている。これは最後の文の“～ start putting it away in your closet ~from school.”より、“closet”に引き寄せられ、その前後の英文の意味を理解できず、残りの選択肢から正しい答えを導き出すことができなかつたことが原因であると考えられる。また誤答選択肢 [D] も 18.1%と選択肢 [C] に続いて多く、英文の流れを追いきれていなくて最後に聞こえてきた単語“school”を選んだ可能性がある。

A1 下位レベルにとっては、まとまった英文から必要な情報を聞き取ることに課題がある。

■学習指導に当たって

「聞くこと」の Part ごとの正解率は、以下のとおりであった。

	A1 下位レベル	A1 上位レベル
Part A	70.2%	91.3%
Part B	26.9%	45.5%
Part C	44.5%	76.0%
Part D	34.7%	60.2%

両レベル共通して、Part B（あらかじめ準備がない状況＝即興的）がもっとも難しく、次点で、A1 下位レベルは本 Part D が難易度が高い状況である。

英語を聞くと同時に意味を理解するというのは実際のコミュニケーション場面では極めて重要である。しかし、「何のために聞くのか」「何の情報を得る必要があるのか」という目的意識がないまま聞いていても、英語を聞き流してしまい、文全体の意味を理解する力につながらない。きちんとその目的を押さえつつ、まとまった量の英文を聞くときは、わからない語があっても類推して理解しようとする経験を増やしていくことも重要である。

例えば実際のコミュニケーションを想定して、「〇〇はどこにありますか？」「そこにあります」だけでなく、「カバンの中にあります」と加えたり、続けて「何をするつもりなんですか？」「△△に行く時に持っていきます。一緒に行きますか？」「行きたいです」などのように、一つ一つは簡単な英語のやり取りでも、長くやり取りを続けることができるという経験をさせることも効果的である。

(3) 書くこと ～ Writing ～

1. 学習指導要領における領域・内容

- ① 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くことができる。
- ② 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くことができる。

2. 本調査において当技能で問うている力

設問1 「空所補充英作文問題」… 対話中の空所に当てはまる応答を文脈から判断し、適切な英語を用いて表現する力を測定する問題で、上記学習指導要領における①の力を見ている。

設問2 「意見展開問題」… 与えられたテーマに対して、限られた時間の中で自分の意見とその理由を表現する力を測定する問題で、上記学習指導要領における①及び②の力を見ている。

3. 課題など (◇…相当数の生徒ができています点 ◆…課題のある点)

以下の内容は、相当数の生徒が該当する A1 下位レベルの特徴である。

書くこと

◇設問2 について、全体の約 67%の生徒が自分の「考え」、約 68%の生徒が自分の考えに対する「理由」を書くことができています。A1 下位レベルでも約 44%の生徒が自分の「考え」、約 45%の生徒が自分の考えに対する「理由」を書くことができています。

◆昨年度同様、文脈に沿った内容を適切に表現することに課題がある。

◆昨年度同様、評価の3つの観点「内容」「表現」「構成」の中では、「構成」の得点がほかよりやや低い結果となっている。

◆文を作ることはできても、まとまりのある文章を書くことに課題がある。

◆昨年度同様、無得点者が 15.6%と非常に多く、そのほとんどが無解答である。

4. 指導改善のポイント

書くこと

生徒用質問紙の結果から、「書くこと」の学習において、「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりした活動をしてきた」という問いに対して、「そう思う」・「どちらかといえばそう思う」と答えた割合が、A1 下位レベルと A1 上位レベルとでは、約 17%の差がある。その前提を踏まえ、以下を提言する。

○関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて、英文を書く機会を増やす工夫

英語を書く機会を増やす上で、生徒が興味を持ちやすい話題を取り上げることがポイントである。興味のある話題について、自分の考えや気持ちなどを書いて伝えることや、英語で表現できる喜びを味わえるようにすることが、英語を書く意欲を向上させるために重要である。

また、書く力の素地を作るため、「聞く」「読む」の活動を通して語句や文法事項のインプット量を増やしていきたい。そのためには、聞いたり読んだりした内容を理解した上で、「書くこと」の活動と関連付けるなど、統合的な言語活動に慣れ親しませる工夫が求められる。例えば、英文の内容を理解した上で適切な文を書く力をつけるため、簡単な対話文のあとにもう一文加える活動が考えられる。

例：Did you watch the soccer game yesterday?

-Yes, I did. ()

この活動は生徒のレベルに応じて加える文の数を増減させたり、書く内容のヒントを与えたりするなど、難度の調整が可能である。

○文脈に沿った内容を書く指導の工夫

設問 1 の空所補充英作文問題において、A1 下位レベルの生徒の答案を見ると、脈絡のない英文を書いている答案が多かった。また、無解答も目立った。このことから、A1 下位レベルにとっては、空所前後の英文の内容をとらえることが困難であると考えられる。英文全体の内容を把握する力をつけるためには、例えば、中学 1 年生の教科書素材文など、これまでに習った対話文の一部を空欄にし、そこに入る内容を考えるといった活動が効果的である。その際、「書く」活動だけでなく、口頭で答えるようにするなど、即時性のある「話す」活動も取り入れるとよい。

○求められている内容を適切に書く指導の工夫

日常的・社会的な話題について、自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書いて伝えることに対する意欲を高め、求められている内容を適切に書く指導の工夫が求められる。まず、生徒が関心を持てる身近な話題を取り上げるとともに、実際の生活において必要な場面を想定した活動を設定したい。また、今回の設問2の意見展開問題のように、与えられたテーマについて自分の意見やその理由を書く力をつけるためには、自分の「意見」が何であるか、またそう思う「理由」はどこにあるのか、を区別して表現するよう指導することが重要である。その際、すぐに文章を書き始めるのではなく、まずアイデアの整理をすることが大切である。さらに、そのアイデアをペアやグループで相互に伝え合ったり質問し合ったりなどすることにより、伝えたい考えや気持ちなどを深め、伝えたいという意欲を高めることに留意したい。そうすることで、内容面の充実とともに、文章の構成も意識しながら文章を書くことにつながる。このようにして書く目的や、どのような内容を書くことが適切であるかを意識させることが指導の上で大切なポイントである。

○他の領域との関連付けを図る工夫

どのレベルの生徒にとっても、「聞く」「読む」「話す」「書く」活動をバランスよく取り入れることが重要であるが、それぞれの活動をつなげて相互に関連付けながら展開することが望ましい。聞いたり読んだりしたことについて自分の考えなどを書いたり、「話すこと」の言語活動において発話したことを書いてまとめたりする活動が効果的である。例えば、教科書素材文の一部をあらかじめ肯定文から否定文に変えておいて、生徒が全体を読み、不自然な文を見つけて発表する活動などが考えられる。さらに、教科書素材文やそれに似た文章を読み、教師がこの文は「理由」を表しているのか、「結果」を表しているのかを問うなど、文の機能を確認する活動なども有効である。

また、新しい単元を学習する際、最初から素材文を読み始めるのではなく、単元に関連する内容の写真を見せて教師が簡単な質問を英語で投げかけ、生徒が口頭で答えるといった活動も導入として考えられる。このように、「読む」活動の前に簡単なアウトプット活動を行うことで、実際に素材文を読んだときの親和性や単元への関心を高めるだけでなく、自分が感じたことを表現する意欲も高めることができる。

上記の指導改善のポイントにあわせ A1 下位レベルの生徒に対しては、英語が嫌い、文字や綴り、文法などへの苦手意識が強いことから、特に、1.簡単な語句や文を用いて段階的に文章を書く練習を取り入れる、2.日頃から、自分の考え、気持ちや思いを表現する活動を繰り返し行う、3.メールで書いて伝えるなど、実際のコミュニケーションの場面の中で相手に

伝える活動を行うといったことを通して、生徒の意欲を高めながら書く機会を増やす工夫を行うことが重要である。

5. 問題詳細分析

設問 1

■この設問で問うている力

- ① 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くことができる。

1. 次の対話文(1)、(2)の()に合う適切な英文を作成し、自然な会話を完成させなさい。ただし、英文は主語と動詞を含んだ文で書きなさい。1.の時間は2問あわせて5分です。

- (1) あなたは友達^{とも だち}のMikeたちと駅^{えき}で会うことになっています。

Mike: Here you are! Finally! We're all waiting for you!

You: (1)

Mike: That's OK. It is only by 10 minutes. Don't worry.

You: Thanks.

- (2) あなたは教室^{きょうしつ}で友達^{とも だち}のKenに話^{はな}しかけます。

You: Hi, Ken. Sorry, but I want to ask you something. (2)

Ken: Sure.

You: I forgot mine. I just need to write my name on my homework.

Ken: OK. Here you are.

You: Thanks.

※ Copyright © 2017 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

■出題の趣旨・形式

対話中の空所に当てはまる応答を文脈から判断し、適切な英語を用いて表現する。

■得点と割合

設問 1 (1)

「内容」		各レベルにおける 1 点の割合	
得点	割合	A2 レベル	100.0%
0 点	69.6%	A1 上位レベル	62.1%
1 点	30.4%	A1 下位レベル	7.5%

設問 1 (2)

「内容」		各レベルにおける 1 点の割合	
得点	割合	A2 レベル	100.0%
0 点	90.8%	A1 上位レベル	20.8%
1 点	9.2%	A1 下位レベル	0.6%

■分析結果と課題

(1) は、Mike の“*We’re all waiting for you!*”という発言と、空所のあとの“*That’s OK.*”以降の発言から、「あなた」が待ち合わせ場所に遅刻をしたという状況を読み取り、適切な応答を考え、解答する問題であった。文脈から謝罪の言葉が入ると判断し、それを“*I’m sorry to be late.*”などの英語で表現できるかが問われている。A2 レベルに到達している生徒の全員が、文脈に合う内容で適切に英文を書くことができていた。しかし、A1 上位レベルでは正しく解答できた割合が 62.1%と、A2 レベルと 37.9%の差があった。さらに、A1 下位レベルでは 7.5%の生徒しか正答できていなかった。

A1 下位レベルで不正解だった生徒は、空所の前後の英文の内容を読み取ることができていなかったためか、無解答や、脈絡のない英文を書いている答案が多かった。A1 上位レベルの生徒になると、空所前後の英文の内容を読み取って状況を理解し、空所に入れるべき内容は理解できているが、状況を複雑にとらえ過ぎてしまい、“*I’m not get up.*”や“*I haven’t been to station yet.*”など、誤った英文を書いて不正解になってしまう答案が多く見られた。

(2) は、空所のあとに“*Sure.*”とあることから、何かを依頼する内容の英文を入れる問題であった。会話文後半に“*I just need to write my name on my homework.*”とあることから、“*Can I borrow your pen?*”など、何か書くものを貸してくれるよう依頼する文を解答できるかが問われている。

A2 レベルに到達している生徒の 100%が適切な内容を表現できていた。一方で、A1 上位レベルの正答率は 20.8%、A1 下位では 0.6%と、(1) よりもレベル間での差が開いた問題であった。A1 下位レベルでは無解答が目立った。何か書いてある場合も、前後の文脈を考慮できておらず、状況と関係のない英文が散見された。A1 上位レベルになると、空所に入れるべき英文のイメージはついているが、単語の選択ミスにより不正解となる答案が見られた。例えば、“Can you borrow a pen?”や“Can you rent me a pen?”など、単語の間違ひによって文意が変わってしまったために不正解となる答案が見られた。

上記(1)と(2)から、A1 下位レベルでは、場面内容の理解そのものに課題があり、A1 上位レベルであっても、正しい英文を構成する段階でつまずきがあることがわかった。

■学習指導に当たって

昨年度同様、A1 上位レベルであっても、文を作る段階に課題があることがわかった。この課題に対しては、例えば日記など、身近な話題について分量や文章構成にとらわれない形式で英文を書く機会を増やすことが有効だと考えられる。このような活動をする際には、自分の言いたいことを伝えるためにはどのような単語を使えばよいのか、どのような文構造にすればよいのかなど、必要に応じて辞書や教科書を活用しながら、英語で表現することに慣れることを意識させながら取り組ませる工夫が重要である。

また、友人や学校の先生との会話など、日常生活において、文脈に沿った内容を自分の言葉で表現できるようになることは大変重要である。単に英文 1 文の意味を文脈から独立して理解するのではなく、その文が使われる場面を意識しながら活動する工夫が大切である。前述の通り、教科書で取り扱われている対話文の一部を空欄にし、そこに入る内容を考える活動は場面を意識しながら書く力を付けるのに有効である。具体的には、教科書で取り扱われている対話文を 3 文程度用いて、真ん中の 1 文を抜き、その抜けている文を前後の文脈に合うように適切な形で表現させる。または、「もう 1 文この会話のあとに付け足すとしたらどのような内容を続けるか」といった問いかけをする。この活動により、生徒は会話や文章全体の流れの中で内容を把握しようとする。またそれと同時に、会話の流れに合った適切な内容をどう表現すればよいのかを考えることができる。英文を一から書き始めることにハードルがある場合は、既に書かれている英文を活用することなどにより、「英語を書く」ことへの心理的ハードルを下げるのが可能であろう。

さらに、教科書の新出の文法事項を示す基本文に、自分で考えた文を付け足すという活動も考えられる。例えば、現在完了形を用いた文“I have played soccer for 8 years.”のあとに続く文を考えて書かせる場合、“So I’m very good at playing soccer.”や“So I want to start a new sport.”などを付け足すことができる。文脈に適した表現を意識しながら言

いたいことを書く練習を重ねることも、前述の課題に対して有効な手段の一つである。

設問 2

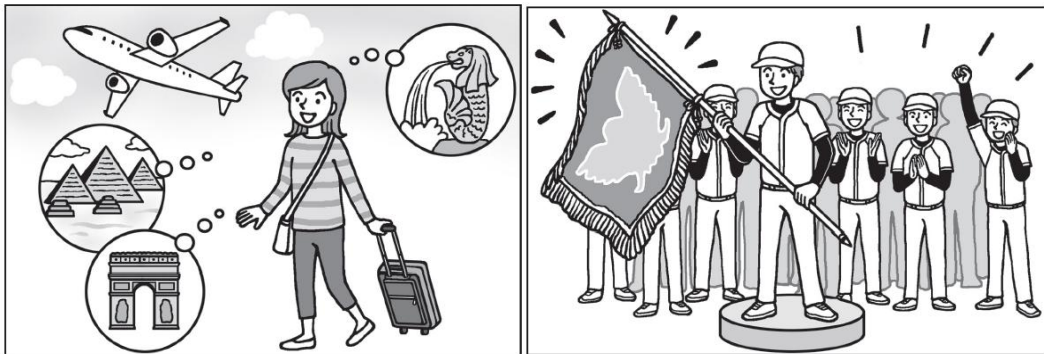
■この設問で問うている力

- ① 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くことができる。
- ② 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くことができる。

あなたは授業中に、下記のテーマで英語の作文を提出することになりました。

作文のテーマ：

あなたが将来やってみたいことや、なりたいものは何ですか。1つ取り上げて、なぜそう思うのか、その理由を書きなさい。



※ Copyright © 2017 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

■出題の趣旨・形式

与えられたテーマに対して、限られた時間の中で自分の意見とその理由を表現する。

■得点と割合

設問 2

項目：「内容」

① 意見

得点	割合
0 点	33.0%
1 点	67.0%

各レベルにおける 1 点の割合	
A2 レベル	100.0%
A1 上位レベル	99.3%
A1 下位レベル	44.1%

② 理由

得点	割合
0 点	32.4%
1 点	67.6%

各レベルにおける 1 点の割合	
A2 レベル	100.0%
A1 上位レベル	99.9%
A1 下位レベル	44.8%

項目：「表現」

① 語彙

得点	割合
0 点	40.4%
1 点	40.8%
2 点	18.7%
3 点	0.0%
4 点	0.0%

② 文法

得点	割合
0 点	55.3%
1 点	35.3%
2 点	9.4%
3 点	0.0%
4 点	0.0%

項目：「構成」

得点	割合
0 点	65.1%
1 点	26.7%
2 点	8.2%
3 点	0.0%
4 点	0.0%

■分析結果と課題

A2 レベル、A1 上位レベルの生徒は、ほぼ 100%が「意見」（将来やってみたいことや、なりたいもの）と「理由」（なぜそう思うのか）を何らかの形で書くことができている。一方、A1 下位レベルでは、約 4 割の生徒しか「意見」も「理由」も書くことができていない。

A1 下位レベルでは、「やってみたいことや、なりたいもの」がアイデアとして浮かんでいないもの、それを英語で表現できなかつたと思われる。「～したい」という気持ちを“want to～”で表現するということが浮かばず、その先に書き進められなかつた答案が多く見られた。また、“want to～”は浮かんでも、正しい文法を理解していないため、“I want to be work ～.”など、文法的に誤った英文も散見された。表現の項目で見ても、主張をサポートする具体例を入れられずに単調な文の羅列になっている答案が多く見られた。

A1 上位になると、ほとんどの生徒が「意見」と「理由」を述べられていた。また、エッセイの構成を意識して段落分けをしたり、理由を“first”、“second”などと順序立てて述べていることができていた。

【0 点の答案について】

「書くこと」において、スコアが 0 点の生徒の割合が、昨年度に比べて約 3 ポイント増加した。0 点の要因分析のため、設問 2 で 0 点だった答案をランダムに 100 枚抽出したところ、100 枚中 97 枚が白紙、2 枚が日本語を書いている答案、1 枚が意味を成さない英単語 1 語のみを書いてある答案であった。つまり、0 点を取った生徒のうちほとんどが白紙で提出しているといえる。生徒質問紙の結果を見ると、「英語の学習は好きですか。」という質問について、「そう思う」・「どちらかといえば、そう思う」と答えた割合が全体では 54% だったのに対し、「書くこと」が 0 点だった受験者に絞ると、23%であった。このことから、英語そのものに対するモチベーションがテスト結果に大きく影響していると考えられる。

■学習指導に当たって

英語そのものに対するモチベーションが低い生徒に対しては、英語を書くことに対するハードルを下げするため、日頃から書く必然性のある設定を与えて、書くことに慣れていくようにしたい。例えば、アンケートに記入する活動として、フォーマットの中に“Name”、“Dream”、“Reason”と枠を作っておき、書くべき内容を意識しながら短い文を書く活動などが考えられる。このとき、生徒の実態に応じて最初は単語だけでもよいとする等の工夫ができる。また、話す活動との連動で、会話した内容をそのまま書く練習をするのも、書くべき内容が明確であるため、書く必然性を感じることができる活動として有効である。

このように、書く活動を段階的に増やしていくことが重要である。

また、自分の考えを明確に、読み手にわかりやすく述べることができるようになるために、その準備活動を工夫することが重要である。日頃の指導において、下記の点に留意しながら行う書く活動は、前述の課題を解決するための一つの手段として考えられる。

1. すぐに英文を書き始めるのではなく、書き始める前にまず書く内容についての準備をする。【内容】
2. 与えられたテーマに対する最も大事な部分について考える。つまり、何を伝えなければいけないのかを考える。【内容】
(例) 賛成・反対を問われる場合⇒自分はどちらの立場を取るのか
ある事柄に対して自分の考えを問われる場合⇒自分が言いたいことは何か
3. アイディアを思いっただけ列挙する。与えられたテーマに対して、思いっただけの考えや経験、情報などをメモに書き出す。さらに、そのアイディアをペアやグループで相互に伝え合ったり質問し合ったりする。【内容】
4. そのように話して伝え合ったことを踏まえ、列挙したアイディアの順番に書き始めるのではなく、どのような順番で文章を書くと読み手に伝わりやすいかを考える（アイディアに番号をつけていくなど）。その際、3.で書きだしたすべてのアイディアを内容に盛り込むのではなく、取捨選択してもかまわない。【内容・構成】
5. 4. で整理した考えを英文でまとめる。【表現】

また、「読むこと」に重点を置いた授業の中でも書くことを見据えた活動の工夫ができる。例えば、教科書などの文章を読む際、英文を1文ずつ理解するだけではなく、各段落で最も重要であること、筆者が言いたいことは何であるかを言ったり、書き出したりするなどして、“topic sentence”を把握しながら読む機会を与える。そうすることで、自分が英文を書くときに、どのような書き方をすれば読み手に主張したいことが伝わるかを意識することができると考えられる。

4) 話すこと ～Speaking～

1. 学習指導要領における領域・内容

- ① 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく発音することができる。
- ② 自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えることができる。
- ③ 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすることができる。
- ④ つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けることができる。
- ⑤ 与えられたテーマについて簡単なスピーチをすることができる。

2. 本調査において当技能で問うている力

Part A「音読問題」…英文を音読し、単語を正しく発音できているか、意味のまとまりを理解して音読できているかを測定する問題で、上記学習指導要領における①の力を見ている。

Part B「質疑応答問題」…試験官からの問いかけに応じて、個人の経験や考えをもとに、もしくは聞いたり読んだりしたことをもとに、即座にかつ適切に応答する力を測定する問題で、上記学習指導要領における②及び③の力を見ている。

Part C「意見陳述問題」…与えられた日常的な話題に対して、ある程度の準備をした上で、個人の考えや経験に基づいて考えを述べる力を測定する問題で、上記学習指導要領における④及び⑤の力を見ている。

3. 課題など (◇相当数の生徒ができています点 ◆課題のある点)

以下の内容は、相当数の生徒が該当する A1 下位レベルの特徴である。

話すこと

◇約 90%の生徒が、母語アクセントが残っていたり、一部発音ミスがあったりしても、聞き手がある程度理解できる発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさに発話することができる。

◇約 75%の生徒が、基本的で身近な話題に関する即興的な質問について、相手の発話に対

応した適切な内容で、おおむね応答できていた。

- ◆約 40%の生徒は、基本的で身近な話題に関する即興的な質問について、時制の誤りなど基本的なミスが繰り返し出てくる、もしくは使える文法や表現が限定的な解答であった。
- ◆約 70%の生徒は、与えられた質問についてある程度の準備をした上で、個人の考えや経験に基づいて、自分の意見、理由などと関連付けながら考えを述べることに課題がある。

4. 指導改善のポイント

生徒用アンケート結果から、「話すこと」の学習において、「生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりしていたと思いますか」という問いに対して、そう思う・どちらかといえばそう思うのスコアが A1 下位と上位では、第2学年において 10.3%、第3学年において 8.7%差がある。また、「英語の授業では、与えられた話題について、(特に準備をすることなく)即興で話す活動をしていたと思いますか」という問いに対して、そう思う・どちらかといえばそう思うのスコアが A1 下位と上位では、第2学年において 9.1%、第3学年において 9.0%差がある。最後に、「英語の授業では、英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思いますか」という問いに対して、そう思う・どちらかといえばそう思うのスコアが A1 下位と上位では、第2学年において 13.7%、第3学年において 11.9%差がある。

その前提と今回のテスト結果を踏まえ、以下を提言する。

○話す活動の後は、生徒が振り返ったり教員からフィードバックをしたりする機会を設ける。

例えば音読活動の後は、正しい発音で音読できていたか、教員がフィードバックし、再度生徒自身に音読させることが大切である。また、英文の意味や場面を意識した音読ができていたかまでをフィードバックすることで自然なリズムやイントネーションで音読する力が身に付く。

○あらかじめ原稿等を準備して話すのではなく、簡単な語句や文を用いてその場で考えて即興的に話す活動を工夫する。

即興的に話す力については、一度の授業で身に付くものではないことから、例えば毎回の授業の帯活動などを通して継続的に指導することが必要である。また、既習の語句・表現

を用いることができる活動の場面を設定することが重要である。例えば授業に関連した内容の質問を即興的に発問し、先生自身がある場で既習の語句・表現を用いて解答することで生徒にモデルを見せたうえで生徒に質問し、生徒に知っている表現で即興的に解答させることを繰り返していくような活動を継続して行っていくことが大切である。A1下位レベルの生徒に対しては、生徒が相手に伝えたいことを伝えられる簡単な語句や表現を使ってペア・ワークを行うなど、生徒の意欲を高めながら話す活動を増やす工夫を行うとよい。例えば、生徒2人でそれぞれ意見と理由を言い合い、お互いの解答をよりよくする方法を考えさせるような活動が効果的である。

○生徒にとってできるだけ興味・関心のある日常的・社会的な話題を取扱い、「相手に伝える」ことを重視した活動を行う。

授業の中で生徒自身が理由を言いたくなるようなテーマを設定するために、教師が生徒の興味・関心をとらえてトピックを蓄積していくことが大切である。日常的・社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて話す活動を行うとよい。自分の意見やその理由を言えるようになるためには、普段の授業の中で生徒が経験したことや、ニュースで見聞きしたことを英語でメモを取り、ペア・ワークや発表活動で「相手に伝える」経験を積み重ねることが大切である。

5. 問題詳細分析

Part A

■この設問で問うている力

強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく発音することができる。

<試験官スクリプト>

Please read the passage silently for 30 seconds.

<30 seconds>

Now please read it aloud.

I just saw Keiko during lunch. She told me that her family was moving to France. I couldn't believe it! It will be great for her to live in France, but she doesn't speak French. What will she do about that?

■出題の趣旨・形式

問題冊子に印字された英文（41語）を音読する。

■得点と割合

観点1：適切な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを音読することができる。

<全体>

得点	割合
0点	9.7%
1点	48.1%
2点	42.2%

<A1 上位レベル・A1 下位レベル別>

得点	割合	
	A1 上位 レベル	A1 下位 レベル
0点	0.1%	12.8%
1点	12.5%	59.9%
2点	87.4%	27.3%

■分析結果と課題

約42%の生徒が、与えられた40語程度の英文を、明瞭で自然な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを音読できていた（2点）。48.1%の生徒について、日本語の発音になっていたり、一部発音ミスがあったりするが、聞き手がある程度理解できる発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを音読できていた（1点）。0点となる「聞き手が理解するのに困難が伴う」生徒は9.7%と最も少なかった。

スピーキング受験者のA1 上位レベルとA1 下位レベルを比較すると、A1 上位レベルの87.4%が2点であったのに対し、A1 下位レベルの72.7%が1点以下となった。

A1 下位レベルの生徒は、聞き手がある程度理解できる発音、リズム、イントネーション、

速度、声の大きさを音読できていたものの、母語のアクセントや、不適切な発音、リズム、イントネーションを伴っているという課題がある。特に0点の生徒は、検収結果を分析した結果、発声はしているものの、ミスの数により減点されて0点となっている例が多い。この設問では、“during”など発音が難しい語彙につまずいたり、疑問文を適切なイントネーションを伴わずに読み上げてしまったりする例が見られた。

■学習指導に当たって

相手に伝わる発音やリズム、イントネーション、速度で発話することは、情報や考えを適切に伝える上で重要であり、話す力の土台となる。これらが正しいものになるよう、日頃より授業中のペア・ワークや発表活動において、その都度指導を行うことが重要である。その際に気を付けたいことがある。一つ目は「誤りを指導するだけで終わらせない」ということである。必ず再度生徒自身が発話し、正しい発音、リズム、イントネーションを体得することが重要である。ある生徒のつまずいたポイントは、他の生徒にとってもよい気付きを促すことができる。二つ目は「意味を重視した音読」となるよう指導を工夫することである。音読活動とは、時として流暢に読めることや、英文を暗記すること自体が目的となってしまうこともあるが、それらはあくまでも結果であって目的ではない。発話の目的はメッセージを伝えることであり、伝えることを意識した音読活動となるよう配慮する必要がある。具体的な指導としては、英語の音声 CD をリピートする活動では、速く読むのではなく CD と同じスピードを保ちながら読むよう促すことが有効である。また、大事な箇所を強く読み、大事ではない箇所を弱く読むよう指導したり、英文中で意識すべき語句を伝えた上で音読させたりすることも効果があるだろう。イメージをわかせるために、チャンクごとに意味を確認しながら音読をするのもよいだろう。あるいは、ペアで音読をする際に、話す方のみ原稿を持っている形をとり、もう片方を聞き手とすれば、英文を見ていない人にも意味が伝わる発話となるように、注意を促しながら音読を行うことができる。

A1 上位レベルの生徒は語彙の発音は正しくできているものの、英語らしいリズムやイントネーションに課題がある。場面や登場人物の心情を理解した上で、音読する文を意味上どこで区切って読むべきかや、自然な英語のリズムを意識した音読を指導する。また、単純に練習する回数を増やすのではなく、場面を意識した音読ができていたかフィードバックを行うことが望ましい。

A1 下位レベルの生徒の多くは語彙の発音に課題がある。発話量を増やす指導が推奨される一方で、正確性の指導が少なくなっているために、生徒が正しい発音を体得しないままになっている可能性がある。例えば A1 下位レベルの生徒が多くつまずいた“saw”という単

語の読み間違いであれば、初習時に正しい発音を身に付けることが望ましいが、誤った発音のままで積み残している生徒も多い。音読指導を通し生徒がつまずきやすい語彙の発音を練習することや、音読後にきちんとフィードバックの時間を取ることが大切である。

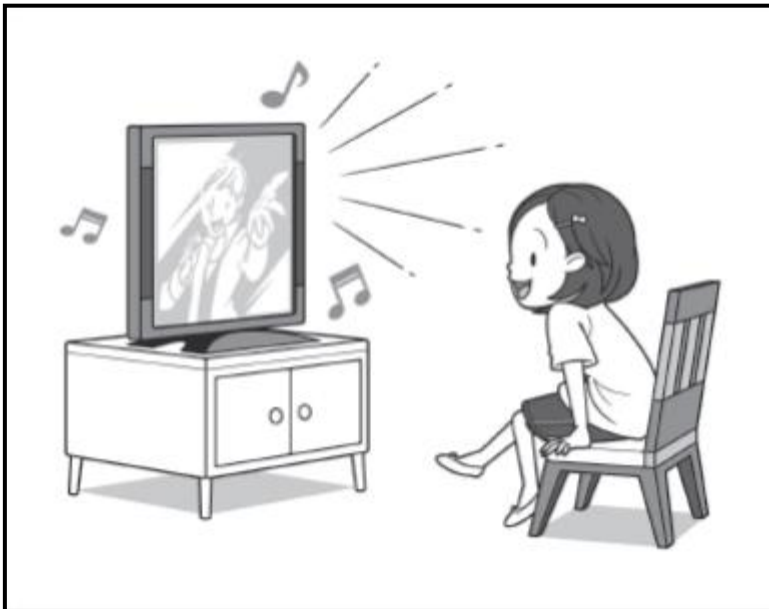
Part B

■この設問で問うている力

試験官からの問いかけに応じて、個人の経験や考えをもとに、もしくは聞いたり読んだりしたことをもとに、質問に対して即座にかつ適切に応答することができる。

Question No.1

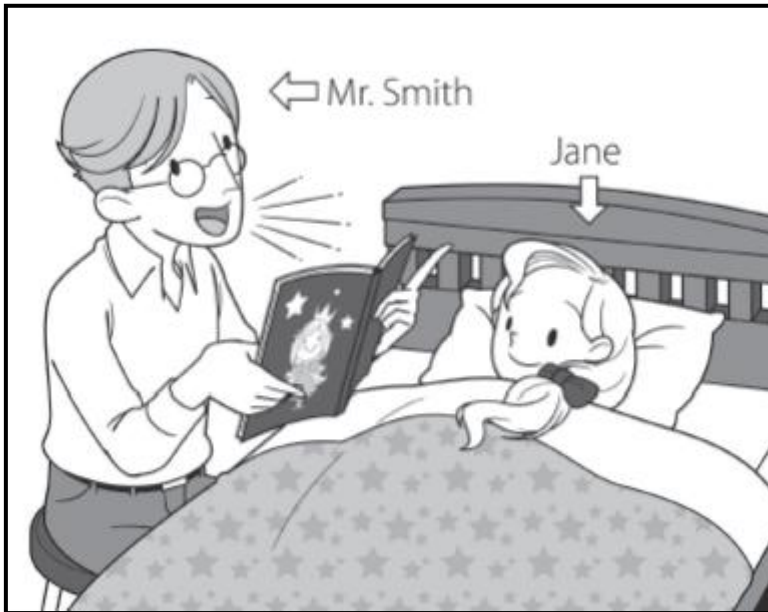
Picture A



<試験官スクリプト> *Please look at Picture A. What is the girl doing?*

Question No.2

Picture B



<試験官スクリプト> *Please look at Picture B. What is Mr. Smith doing?*

Question No.3

<試験官スクリプト> *Which do you like better, playing sports or watching sports? Why?*

※ Copyright © 2017 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

■出題の趣旨・形式

試験官からの問いかけに応じて、イラストを見ながら適切に回答する。(Question No.1,2)
 試験官からの問いかけに応じて、生徒自身の経験や考えを述べる。(Question No.3)

■得点と割合

観点2：相手の発言に対応した適切な内容のやり取りとなっている。

観点3：適切な文法や表現を用いている。

<全体>

	観点2	観点3
得点	割合	

0点	6.5%	9.6%
1点	19.3%	29.1%
2点	37.5%	39.0%
3点	36.8%	22.3%

<観点2：A1 上位レベル・A1 下位レベル別>

得点	割合	
	A1 上位レベル	A1 下位レベル
0点	0.0%	8.6%
1点	0.2%	25.6%
2点	13.7%	45.4%
3点	86.1%	20.5%

<観点3：A1 上位レベル・A1 下位レベル別>

得点	割合	
	A1 上位レベル	A1 下位レベル
0点	0.0%	12.8%
1点	0.8%	38.4%
2点	35.2%	40.3%
3点	64.0%	8.5%

■分析結果と課題

この設問では、適切な表現を用いながら、相手の発話に対応した適切な内容で応答する力が要求される。準備をする時間は与えられず、即興での応答が求められるが、質問は日常的な場面のイラスト描写や、自分自身の好みについてであり、生徒にとっては身近な内容である。全体では 74.3%の生徒が相手の発話に対応した適切な内容で、おおむね、もしくはすべてに回答できていた（観点2）。また 61.3%の生徒が、適切、もしくはほぼ適切に

応答できていて、文法や表現に誤りがあったとしても、伝えたい内容はわかるだけの解答ができていた（観点3）。

A1 上位レベルと A1 下位レベルを比較すると、A1 上位レベルは 86.1%が内容の評価（観点2）で3点であったのに対し、A1 下位レベルでは 20.5%とかなり少ない。文法・表現の評価（観点3）についても、A1 上位レベルは3点が 64.0%なのに対し、A1 下位レベルは2点以下に 91.5%が集まっている。A1 下位レベルは、ある程度は適切な内容で応答できているものの、表現の誤り、曖昧さや発話量の不足などにより、十分な応答となっていなかったと考えられる。身近な話題の問いであっても、即興的に応答する内容を判断し、適切な英文を組み立てて発話する力に課題があると言える。具体的に問題を見ると、A1 下位レベルは、Question No.2 の“**What is Mr. Smith doing?**”という質問に対し、“**He is reading.**”と答えており「誰に」が正しく伝えられていないもの（観点2）や、be 動詞と一般動詞の重複使用、冠詞の誤り等（観点3）があった。Question No.3 では、“**Which do you like better, playing sports or watching sports? Why?**”という質問に対し、“**I like watching TV because I like soccer.**”のように、質問に対する適切な応答となっていない例（観点2）、動名詞や冠詞の誤り（観点3）があった他に、“**Why?**”に対する応答に、途中で詰まってしまうたり、意見を支持する理由を言うことができなかつたりした。

A1 下位レベルの内容の評価（観点2）の平均点は約 1.8 点なのに対し、文法・表現の評価（観点3）の平均点は約 1.4 点であった。同様に A1 上位レベルの内容の評価（観点2）の平均点は約 2.9 点なのに対し、文法・表現の評価（観点3）の平均点は約 2.6 点であり、いずれも内容の評価より文法・表現の評価の得点率が低い。このことより、即興的な応答に際して、文法・表現を適切に使いこなす力は A1 上位レベル・下位レベル共通の課題と言える。とりわけ、A1 下位レベルは、基本的なミスが繰り返し出てきたり、使える文法や表現が限定的であったりする点に課題があると読み取れる。

生徒質問紙 No.14 で「(特に準備をすることなく) 即興で話す活動をしていましたか」という問いに対し、いずれの学年でも A1 上位レベルの方が A1 下位レベルよりも「そう思う」の割合が高かった。当然ではあるが、校内での学習経験とも関連があることを示している。

■学習指導に当たって

全体で 74.3%の生徒が、相手の発話に対応した適切な内容で、おおむね、もしくはすべてに
応答できていたことを考えると、授業の中で即興性を重視した指導を行ってきた効果
だと言えるだろう。教員質問紙 No.1-(3)の「質問や依頼などを聞いて適切に応じる活動を行
っていますか」という質問について、「よくしている」、「どちらかといえば、している」の

回答の合計は 82.7%であった。意見を支持する理由でつまづく生徒が多かったことを踏まえると、まずは教師自身が授業の中で “because” を多くの回数使い、理由を付け加えて話すことで、生徒にモデルを見せることが大切である。モデルを見せた上で、生徒に即興性のある質問を行った後、“Why?” と質問し理由まで答えさせることが効果的である。

A1 上位レベルである程度話せる生徒に対しては、可能な範囲で ICT などの機器を利用し、自分自身の発話を振り返る機会を設けるとよい。説得力のある意見や理由が言えているかどうか、自分自身でチェックさせるとともに、ALT が例を示したりフィードバックしたりすることも効果的である。

A1 下位レベルの生徒に多い、発言する内容でつまずいてしまう生徒には、まずは発話する内容を考えさせるために、生徒に即興的な質問をし、出てきた単語を先生が文にして生徒に繰り返させる方法がある。また、学び合いの視点から、生徒 2 人のペア・ワークでテーマを与えて意見と理由を言い合い、それぞれの理由をよりよくするためにはどうしたらよいか、ペアになった生徒 2 人で書いてみることも効果的である。

さらに、授業の中で生徒自身が理由を言いたくなるようなテーマを設定することも大切である。教師が生徒の興味・関心をとらえてトピックを蓄積していくことが求められている。国語など他教科等で考えさせているトピックを少し簡単にして使う方法もある。

Part C

■この設問で問うている力

与えられた話題について、個人の考えや経験などに基づいて自分の意見とその理由を述べることができる。

Topic : **The best way to learn English**

<試験官スクリプト>

Here is the last question.

What is the best way to learn English, and why do you think so?

Before you start to speak, you have one minute. Then, you will have one minute to speak.

<60 seconds>

Now, please begin.

■出題の趣旨・形式

試験官からの問いかけに応じて、準備時間 1 分の後に、生徒自身の考えや経験などに基づいて自分の意見とその理由を述べる。解答時間は 1 分である。

■得点と割合

観点 4：与えられた問いに対応した適切な内容となっており、論理展開がわかりやすい構成になっている。

観点 5：適切な文法や表現を用いている。

<全体>

	観点 4	観点 5
得点	割合	
0 点	51.7%	53.1%
1 点	21.8%	22.3%
2 点	16.5%	16.9%
3 点	10.0%	7.7%

<観点 4：A1 上位レベル・A1 下位レベル別>

得点	割合	
	A1 上位 レベル	A1 下位 レベル
0 点	0.5%	68.6%
1 点	14.0%	24.3%
2 点	46.3%	6.7%
3 点	39.2%	0.4%

<観点 5：A1 上位レベル・A1 下位レベル別>

得点	割合	
	A1 上位 レベル	A1 下位 レベル
0 点	0.4%	70.5%
1 点	16.2%	24.3%
2 点	52.8%	5.0%
3 点	30.7%	0.1%

■分析結果と課題

この設問では、生徒自身の考えや経験などに基づいて自分の意見とその理由を述べる力が要求される。準備時間は1分間与えられた。全体では、与えられた質問に対応した内容で、論理展開がわかりやすい構成を伴って応答できた生徒は全体の10%にとどまった（観点4）。一方で、与えられた質問に対応した内容になっていない、あるいは内容が量的にはほとんどないか断片的であると判断された生徒は51.7%と多かった。適切な文法や表現を用いていて、誤りがあっても理解には影響しない程度と判断された生徒は全体で7.7%と少なく（観点5）、全体の53.1%が、使える文法や表現は限定的、あるいは自分の言葉で話せた内容が10数語に満たないと判断された。

A1 上位レベルは85.5%が2点以上で、要素を関連付けながら、論理的に応答できていたのに対し（観点4）、A1 下位レベルでは68.6%が0点で、与えられた質問に対応していない、もしくは発話がほとんどないか断片的であった。24.3%の生徒が1点で、質問に応答してはいるものの、単純な要素を並べ立てているのみの発話であった。

A1 上位レベルの生徒の83.5%が2点以上で、文法や表現に誤りは出てくるものの、伝えたい内容はわかる、もしくは理解に影響しない程度であった（観点5）のに対し、A1 下位レベルでは68.6%が0点、24.3%が1点と低い結果であった。

全体の5割強に属する生徒は、発話量自体が非常に少ない、もしくは断片的になってしまったり、相手の発話に対応した応答ができなかったりする状況にある。それらの問題がなかった4割弱の層であっても、単純な要素を並べ立てて発話するところまではできるが、要素を関連付けながら応答する点に課題があると読み取れる。身近なテーマとは言え、1分間で自分の考えと理由をまとめ、適切な英文を組み立てて順序立てながら応答するのは、特にA1 下位レベルにとって非常に難しい問いであったと思われる。

生徒質問紙 No.16 で「英語の授業では、英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思いますか」という問いに対し、中学1年～3年のいずれの学年でもA1 上位レベルの

方が A1 下位レベルよりも「そう思う」の割合が高かった。論理展開やつなぎ言葉を意識した活動を経験していたことが今回の点数差につながったと言える。

■学習指導に当たって

全体として、自分の意見を支持する理由を伝える部分で多くのつまづきが見られた。説得力のある意見と理由を伝える力を付けるために、普通の授業から、大事なことを考えてメモをとる習慣を付けるとよい。リスニングの指導の中でも、聞き取れたこと全てのメモをとるのではなく、何度も読み上げられるキーワードのメモをとったり、先生が黒板に書いた内容に対してどう考えたのか、自分の答えを書いたりすることで、自分なりの意見や理由を言う力が身に付いていく。生徒がどんなメモをとっているかを確認し、キーワードのメモをとれている生徒の例を黒板で共有することも効果的である。また、理由の欠けているモデル文を ALT が示し、何が欠けているのかを考えるような活動も効果的である。論理的に考える力を付けるための方法として、例えば“Which do you like better, winter or summer?”という質問に対し、“I like winter better because...”と生徒が答えたら、続けて“I like summer better because...”と逆の答えも考えたりするような活動も考えられる。

A1 下位レベルの生徒にとっては、質問で問われている内容がわからない、というのが最初の課題である。普段から英語のみの質問を受けて考える経験が必要である。生徒から単語レベルの解答を聞き出し、教員が文にして繰り返させることが効果的である。また問題自体が理解できていない場合に質問を聞き返す表現を授業の中で身に付けさせておきたい。質問に対して問われている内容はわかるが、解答内容が思い浮かばないというのが次の課題である。内容構築ができない生徒のためには、まずアイデア出しの手順に慣れることが必要である。自分の経験したことや、新聞・ニュースで見聞きしたことをもとに、意見・考えとその理由を具体的にメモすることから始めたい。

さらに、「言いたいことはあるが、英語が出てこない」という課題がある。そのような生徒には、発表のためのフォーマットを与えることが有効である。ライティングとは異なり、全体の発表内容を精緻に整理することなく思いついたアイデアを述べることになるので、会話を続けるために役立つ、“I think...” “It is because...”などの表現の型を導入することが重要であろう。また、発話を構成する上での型を導入することも考えられる。例えば、発表する際には「出来事・事実に加えて、感想を述べよう」「理由を三つ考えてみよう」などの、「話の流れの型」を与えることで、徐々に発表活動に慣れていけるだろう。まずは教員によるモデルを示し、最初のうちはモデル発話を真似てもよいなど、段階的に指導することが望ましい。題材は、なるべく生徒が当事者として考えられるものにするなど、内容が思い浮かびやすくなるような工夫が必要である。

